

# 令和3年8月の大雨の状況及び治水対策の効果(平成30年7月豪雨(西日本豪雨)との比較)

令和3年8月の大雨

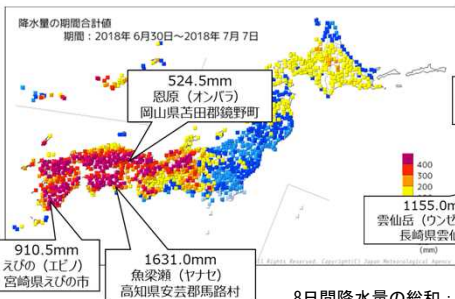
- R3.8の大雨は、総降水量で比較した場合、H30.7豪雨と概ね同じ規模【①】
- 今回の大雨にあたっては、ダムの事前放流として西日本を中心とする69ダムでハッ場ダム約0.8個分に相当する約7600万m<sup>3</sup>の容量を確保【②】
- また、H30以降、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」として、九州、中国地方の河川においてここ3年間でダンプ約230万台に相当する約1130万m<sup>3</sup>の河道掘削を新たに実施するなど、水位低下対策の取組を推進【③】
- そのこともあって、H30.7豪雨では315河川において氾濫等が発生したのに対し、今回の大雨では氾濫等が発生した河川が88河川に抑えられた【④】

※数値はR3. 12. 13時点

## ① 総降水量

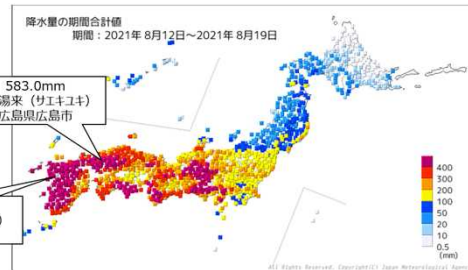
【全国主要地点における8日間降水量の総和】

<平成30年7月豪雨>



8日間降水量の総和：  
約21.1万mm(962地点)

<令和3年8月の大雨>



8日間降水量の総和：  
約21.6万mm(962地点)

## ② ダムの洪水調節のための確保容量

【ダムの事前放流による洪水調節のための確保容量】

	平成30年7月豪雨	令和3年8月前線大雨
事前放流による確保容量 (国交省所管ダム+利水ダム)		0.76億m <sup>3</sup> (7600万m <sup>3</sup> ) 〔69ダム〕 (ハッ場ダム約0.8個分)

※事前放流の対象ダムは全国で1477ダム(令和3年5月時点)となっており、これら対象ダムの事前放流により、最大でハッ場ダム約58個分の容量が確保可能  
※事前放流の実績としては、令和2年7月豪雨では全国でハッ場ダム約0.8個分、令和2年台風第10号では全国でハッ場ダム約0.5個分の容量を確保



事前放流実施ダム数	
● 多目的ダム(直轄)	9 ダム
● 多目的ダム(水機構)	7 ダム
● 多目的ダム(道府県)	21 ダム
● 利水ダム	32 ダム
合計	69 ダム

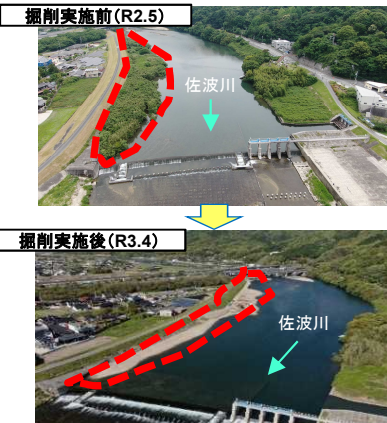
## ③ 「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」による河道掘削

【3か年緊急対策による河道掘削量(H30~R2)】

	河道掘削量(m <sup>3</sup> )		
	中国地方	九州地方	(参考)全国
国管理河川	約340万m <sup>3</sup>	約400万m <sup>3</sup>	約3,000万m <sup>3</sup>
県管理河川	約110万m <sup>3</sup>	約280万m <sup>3</sup>	約1,500万m <sup>3</sup>
合計	約450万m <sup>3</sup>	約680万m <sup>3</sup>	約4,500万m <sup>3</sup>
	約1,130万m <sup>3</sup> (ダンプトラック約230万台に相当)		

※10tダンプトラックを想定し、1台あたりの積載量は5m<sup>3</sup>として換算

河道掘削事例(佐波川水系佐波川(山口県防府市))



## ④ 氾濫等発生河川数

【氾濫等発生河川数】

※1 氾濫や河川沿いの内水などの被害が確認された水系・河川数を計上  
※2 出典:平成30年7月豪雨による被害状況等について(第52報:国土交通省)  
※3 出典:令和3年8月11日からの大雨による被害状況等について(第28報:国土交通省)

	平成30年7月豪雨※2	令和3年8月の大雨※3
国管理	22水系47河川	5水系7河川
都道府県管理	69水系268河川	27水系81河川
合計	75水系315河川	29水系88河川



<平成30年7月豪雨>小田川における浸水被害(岡山県倉敷市)



<令和3年8月前線大雨>池野川(県管理)における浸水被害(福岡県久留米市)